

## 2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	省エネルギー計画支援ツール開発小委員会		主 査 名：岡 建雄 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：岩田 利枝 主 査 名：秋元 孝之
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・2017 年度：</p> <p>(1)省エネルギー基準に配慮したツールの計算手法をまとめる。</p> <p>(2)既存建築の省エネルギー改修に対応できるツールの計算方法をまとめる。</p> <p>(3)太陽エネルギー利用、太陽光発電の設備費、性能に関する資料をまとめる。</p> <p>(4)パキスタンの気象データを収集する。</p> <p>・2018 年度：</p> <p>(1)省エネルギー評価ツールを Excel で開発する。</p> <p>(2)パキスタン国に適用できる省エネルギー評価ツールを開発し、途上国支援、国際協力の一助とする。</p> <p>(3)設備費と運用エネルギーのデータを収集できる建物を対象に、ツールの妥当性を確認する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：岡建雄 (宇都宮大学)</p> <p>幹事：森川元樹 (森川設計)、海藤俊介 (NTT ファシリティーズ総合研究所)</p> <p>委員：赤嶺嘉彦 (国土技術政策総合研究所)、中島康孝 (建築技術情報センター)、横尾昇剛 (宇都宮大学)、木村博則 (石本建築事務所)、近藤武士 (日建設計総合研究所)、川津行弘 (日本設計)、武田晃成 (東京ガス)、金田久隆 (大林組)、高久香織 (バコーポレーション)、狩野直樹 (きんでん)、福田全志 (カンキョウエンジニアリング)、相曾一浩 (OM ソーラー)、Asad Mahmood (ENERCON, Ministry of Water &amp; Power, Pakistan)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>WG 名：省エネルギー設備設計資料作成 WG</p> <p>目的：(1) 設備、建築設計に適用されている省エネルギー手法をまとめる。</p> <p>(2) 省エネルギーに関する研究成果をまとめる。</p> <p>(3) これらの成果を配布資料として出版することを最終の目的とする</p>		
2018 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 100%達成 2. 50%達成 3. 70%達成
委員会活動の問題点・課題	1. 既存建築の省エネルギー化に関するコストデータの収集に時間がかかった 2. WG 活動との連携が取れない 3. 作業が遅れており、2019 年 10 月を目指して、シンポジウムを開催したい

2018 年度 小委員会活動 自己評価  
(最終年度評価)

<p>総合評価 (4 段階評価)</p>	<p>B</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中小事務所ビルの省エネルギー手法に関する負荷計算、エネルギー消費量、設備費コストに関する Excel 評価シートは完成したと言える。また本 Excel シートは省エネ法の計算を自動的にを行い、結果を表示するように作成されており、BPI<sub>m</sub>、BEI<sub>m</sub> をすべて表示する。コストデータの入れ替えの必要性は残るにしても、Excel シートの作成は完成した。</li> <li>2. パキスタンを対象国として、国際協力を念頭に置き、DOE 資料からパキスタンの気象データも作成し、Excel シートも英文化したが、JICA 担当者が次々と変わり、想定していたパキスタン政府との連絡がつかなくなって、中断してしまった。当初、パキスタン政府関係者からも積極的な回答があったので、今後、機会があれば、継続したいと考えている。</li> <li>3. 既存事務所ビルの省エネルギー改修に関する Excel シートを作成すべく、活動しているが、データ収集が遅れている。特に自動制御は協会に依頼しているものの、4 月以降に回答するとのことになっている。こうした点を含めて、Excel 既存改修は 10 月を目指して完成させ、シンポジウムを開催したいと考えている。</li> <li>4. なお今まで収集した資料を 3 月末を目途に報告書の形でまとめておき、シンポジウム資料として配布する予定である。</li> </ol>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。